### 院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル

### 【本プロトコルに係る原則】

- ・ 先発医薬品において「変更不可」の欄にチェックがあり、かつ保険医署名欄に処方医 の署名又は記名・押印がある場合は、処方薬を後発医薬品に変更できない。
- ・ 「変更不可」の記載がある場合は、その指示に従う(含量規格変更不可や剤形変更不可)。
- ・麻薬・抗がん剤・覚醒剤原料はプロトコルの対象外とする。
- ・ 処方の変更は、各医薬品の適応および用法用量を遵守した変更とすること。また安定 性や溶解性、体内動態等を考慮する。
- ・ 患者に十分な説明(服用方法、価格、安定性など)を行い、同意を得たうえで変更する。

### 1. 各種問い合わせ窓口

① 処方内容等に関すること (通常の疑義照会)

受付時間 平日 9:00 から 17:00、土曜日 9:00 から 13:00 上記時間外でも薬剤部当直者が対応します。

窓口 TEL 03-3964-1211(代) 薬剤部 内線 30102

- ② 問い合わせ簡素化プロトコルに関すること 受付時間 平日 9:00 から 17:00、土曜日 9:00 から 13:00 窓口 TEL 03-3964-1211(代) 薬剤部 内線 30102
- ③ 保険関係(保険者番号、公費負担など)受付時間 平日8:30から17:00、土曜日8:30から12:30窓口 TEL 03-3964-1211(代) 医事課外来保険係 内線32125

## 2. 処方変更・調剤後の連絡

問い合わせ簡素化プロトコルに基づき、処方変更し調剤した場合は、変更内容を「院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコルによる処方変更報告書」に記入し、下記の FAX 番号に送信してください。

FAX 03-3964-2005 帝京大学医学部附属病院薬剤部

#### 3. 問い合わせの不要例

① 薬歴上継続処方されている処方薬に残薬があるため、投与日数を調整(短縮)して 調剤をすること。いかなる場合でも、処方日数の延長は行なわない(以前より継続 服用している薬剤で次回受診日までの処方日数が足りないなど)。 例:バイアスピリン錠 100mg 1回1錠 1日1回朝食後 70日分

→ 63 日分 (残薬が1週間分確認できたため)

② 一包化調剤の指示追加

※患者希望あるいは一包化することにより患者のアドヒアランス不良の改善が見込まれる場合に限る。

③ 用法の変更

※用法が明らかに異なる場合の変更

例:フォサマック錠 35mg 1回1錠 1日1回 朝食後

→ 起床時

ボグリボース OD 錠 0.2mg 1回1錠 1日3回 毎食後

→ 毎食直前

④ 湿布薬について、1 袋に入っている枚数と処方数量に差異が生じる場合の処方数の 適正化

例:ロキソプロフェン Na テープ 100mg (7枚/袋) 36枚 1回1枚 腰

→ 35 枚

⑤ 週1回製剤、月1回製剤および「1日おきに服用」、「週3日服用」などの指示のある薬剤が、連日投与の他の処方薬と同一日数で処方されている場合の処方日数の適正化

例:フォサマック錠 35mg 1回1錠 1日1回 起床時 35日分

→ 5 日分

バクタ配合錠 1回1錠 1日1回 朝食後 7日分 月水金に服用

→ 3 日分

⑥ 成分が同一の銘柄変更

※先発品同士、後発品から先発品への変更も可能

※負担額が高くなる場合は説明と同意が必要

例:フォサマック錠 35mg

→ ボナロン錠 35mg

# → アレンドロン酸錠 35mg「○○」

※製剤的特徴が異なる場合は変更不可

例:プログラフカプセル

→ #グラセプターカプセル

ネオーラルカプセル

→ \*サンディミュンカプセル

(7) 剤形の変更(内服薬に限る)

※用法用量、安全性、溶解性および体内動態等を考慮すること ※服用方法や負担額が高くなる場合は説明と同意が必要

例:カルボシステイン錠 → カルボシステイン DS アムロジピン OD 錠 → アムロジピン錠 カロナール錠 → アセトアミノフェン原末

※製剤的特徴が異なる場合は変更不可

例:デパケンR錠

→ ★デパケンシロップ

プログラフカプセル

→ \*プログラフ顆粒

⑧ 別規格製剤がある場合の処方規格の変更※服用方法や負担額が高くなる場合は説明と同意が必要

例:  $5 mg 錠 1 回 2 錠 \rightarrow 10 mg 錠 1 回 1 錠$   $20 mg 錠 1 回 0.5 錠 \rightarrow 10 mg 錠 1 回 1 錠$   $500 mg 錠 1 回 1 錠 \rightarrow 250 mg 錠 1 回 2 錠$   $1 mg 錠 1 回 2.5 錠 \rightarrow 1 mg 錠 1 回 2 錠 + 0.5 mg 錠 1 回 1 錠$ 

⑨ 湿布薬や軟膏での規格変更に関すること(合計処方量が変わらない場合)

例: ヘパリン類似物質油性クリーム 0.3% (50g/本) 6本

→ (100g/本) 3 本